

Reform house

M 邸の母屋は昭和21年ごろ、裏山にあった木を利用して建てられました。天井を見上げると迫力のある地松の梁が行き交っています。これまでは賃貸アパートで暮らしていたMさんご夫妻。高齢の母親がひとり暮らしになったこともあり、実家をリノベーションして一緒に暮らすことにしました。「おばあちゃんを救うためのリノベーションでもありましたね」と奥さまが語るように、高齢者のひとり暮らしには過酷な状況でした。冬場は隙間風による寒さで動きが鈍くなり、こたつのなかから出られないような生活。また段差も多かったため、家のなかで転んでケガをしたこともあったとか。

母屋が建てられて約70年。新築からリノベーションを考えたとき、先代からの資産を受け継ぐことのできるリノベーションを選びました。また、新築と比較したときの予算が1/3以下で収まるということも決め手のひとつになりました。新たに生まれ変わったM邸は快適そのもの。「温度差も段差もなく室内が快適なバリアフリーだから、母も今まで以上に動き回れるようになりまして」と話してくれました。

リノベーションするにあたってご夫妻が希望したのは、大きな吹き抜けのある空間と、薪ストーブの導入でした。吹き抜けは梁の効果もあって重厚感たっぷり。大工さんが梁を見て残すことを勧めたというもうなづけます。南側からの自然光がたっぷりこそそぎ、南北に風が抜けるLDKは居心地がよく、家族が自然と集まります。この最良の場所はこれまで座敷となっており、来客があるまで使用されない空間だったのです。光と風が行き交う快適な場所を生活の拠点としたM邸。ライフスタイルの変化で間取りは変わりましたが、これから先もM邸の住人を心地よい環境で守り続けていきます。



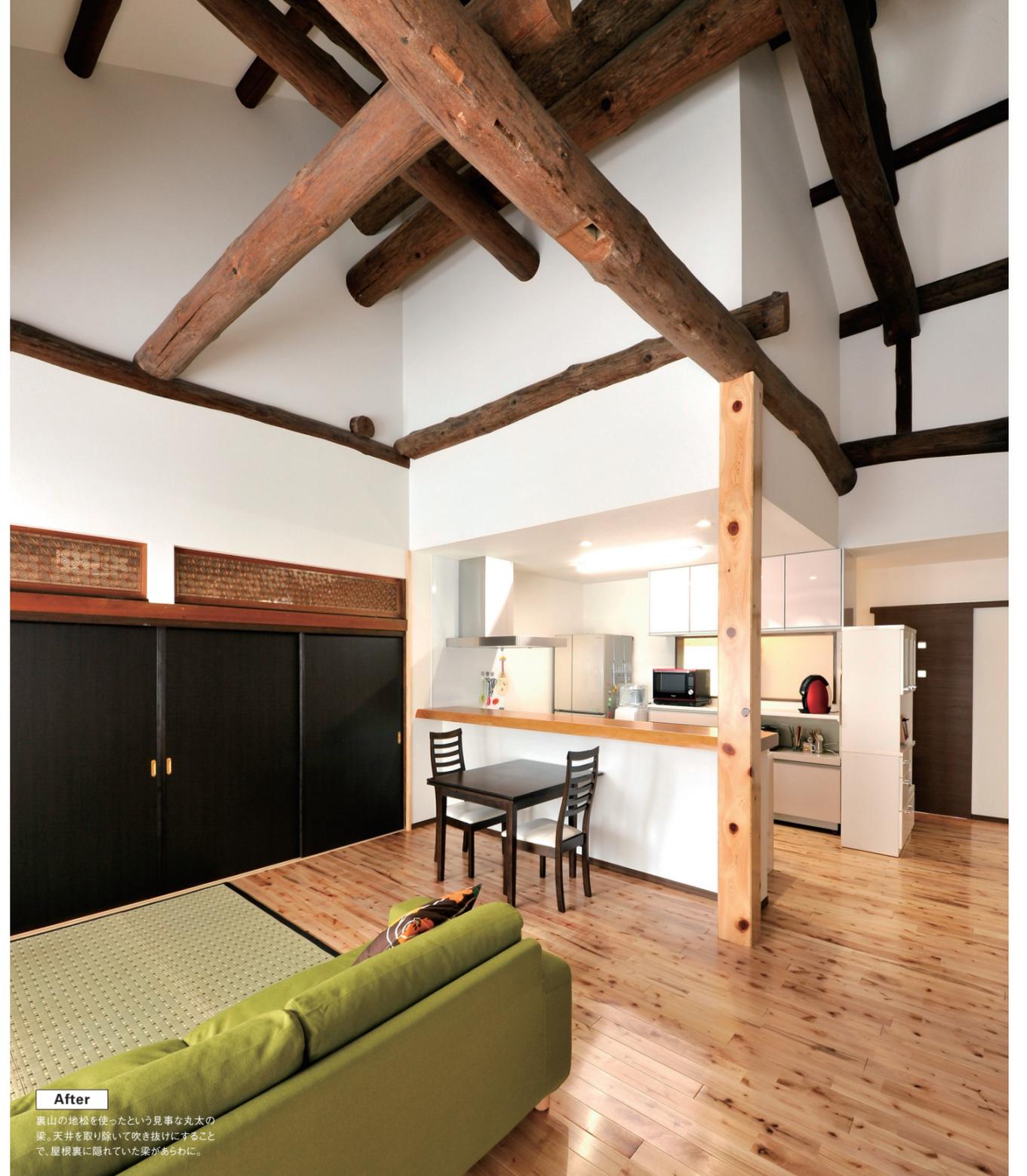
1. 冬は隙間風に悩まされていたというこの空間が、快適なリビングに生まれ変わりました。2. 南側から入った光はLDKいっぱい広がって快適。リビングの向こうには和室があるので扉を開放すればさらに広々とした空間に。3. ご夫妻の憧れだった薪ストーブも導入し、冬のリビング空間が楽しくなりそうな予感。今から寒くなる日が待ち遠しい。4. LDKの一角にはスキップフロアで差別化した和空間が。仕切れば部屋として活用できます。小上がり部分は腰掛けとしても。5. 見上げると丸太の柱が張り巡らされて、シーリングファンをつけて空気を循環。6. ゆったり広々とした玄関。ニッチ部分は窓になっており、奥の和空間と繋がっています。光と風の通り方、動線を考えた玄関設計。7. リフォームなら、今までこの家で暮らしてきた人たちの思い出、形として残すことができます。

株式会社池田工務店

企業情報→P309

> M邸Housing data

家族構成 / 夫婦+母親
 竣工 / 2014年7月
 構造 / 木造軸組工法
 延床面積 / 135.65㎡ (41.03坪)
 土地 / 約209.3坪 (自己所有)



After

裏山の地松を使ったという見事な丸太の梁。天井を取り除いて吹き抜けにすることで、屋根裏に隠れていた梁があらわに。



Before

Reform house CASE

06

家族のライフスタイルに合わせた スマートな動線と間取りを実現。

家の半分以上が座敷となっていたM邸。大規模リノベーションで家全体に光と風が行き渡る開放的な空間を実現しました。